てんご新聞

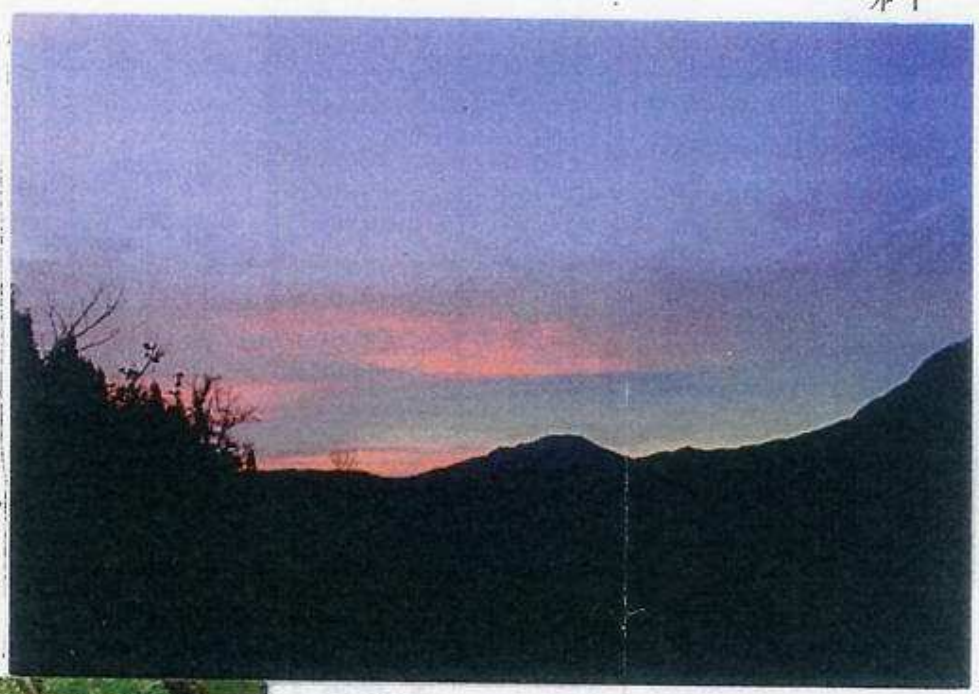
'16.6.No228
発行責任 市岡日出夫
0883-88-5292

中と地区を望む

昔々といえども、私の人生の中ですから、そんなに大昔でもありませんが、年に春と秋の祭りがとてもにぎやかでした。
学校でいえば、運動会や学芸会がありました。
ですから、とても楽しみで強く記憶にも残っていることになる。
所が、ここ数十年の間に毎月、お祭りという催が目白おしではないでしょうか。

毎日が○○○で

何かをしなければ「地域活性化」「地方創生」から取り残されそうな気分になる。
逆から見れば、イベントをすることで地域活性化になり、地方が元気になると感じている。
「商売人」以外の人は、お祭りに疲れてくまではいないでしょうか。
お金をかせげば活性化になっているのでしょうかとおもってしまう。
いろんな制度が出来たりするが、補助金の名目が違うだけで、本質的には何も変わっていない。
議員さんや、町や市のトップが変っても効果が見えぬくい。
変ったのは、お金の流れ方が、違っただけなのかも知れない。
他者頼みのイベント、祭りが多くなっても、地元の人達が、楽しみ、喜こぶ、顔が見えなくなっている。
!!…とグチを言ってみても好転はみこめないから、自分でなんとか……って力んでもないと。



中津山西の夕焼け

小さな谷川でも心なごむ。小さな流れがあったりして

独りで楽しむ 私の中の絶景

祖谷の絶景って何処と聞かれると、ここです！絶体。なんて言って写真を載せることは致しません。
私、独りが楽しむ絶景です。
「山の紅葉」の手伝いをしていると、そんな絶景がありません。時には、はじめて！といえる山野草も見かけたりします。
寂しんぼうになりますが、その時だけにします。申し訳ありませんね。